



篠山版

丹波新聞社

篠山支局 〒669-2323
篠山市立町9-0
TEL (0795) 52-7105
FAX (0795) 52-7106
本社 〒669-3309
兵庫県氷上郡柏原町
TEL (0795) 72-0530(代)
FAX (0795) 72-1956
ホームページ
http://www.tanba.jp
毎週日曜日・木曜日発行
月ごめ購読料 1,220円

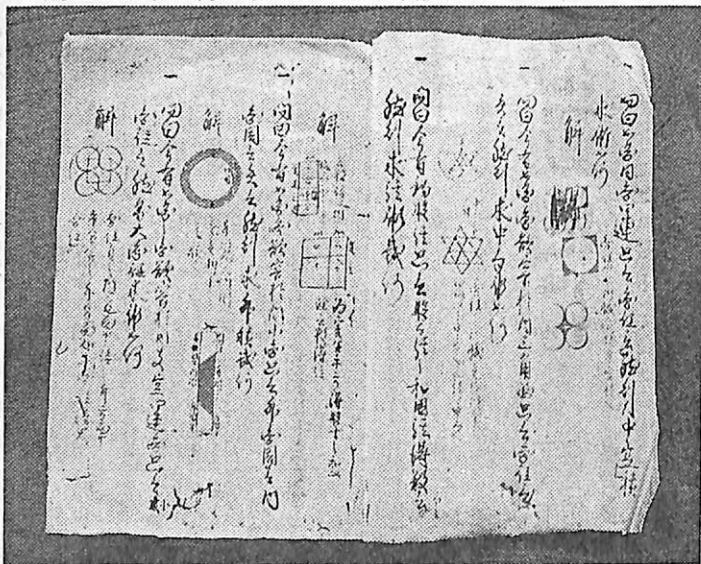
高度だった 数学教育

篠山藩

大学レベルの問題も解く

篠山藩では高度な数学の教育が行われていたという事実が、近畿和算ゼミナールの調査で明らかになった。篠山藩には十五人ほどの和算家があり、藩校の「振徳堂」や江戸の藩邸で数学を教えていたほか、みづから研究に励み、教科書も作っていたと思われる。なかには高校や大学レベルの問題もあった。調査にあたった同ゼミナールの会員は「調査はまだ三分の一ほどで、篠山に残っている史料をさらに調べたい」と意欲を燃やしている。

安間家史料館に保存されている「少智録図解」。篠山藩の高度な数学教育がうかがえる史料だ



研究家が調査

和算家15人、教科書も作る



島野達雄さん

和算は、わが国で独特の発達を遂げた数学のこと。同ゼミナールは、神戸大学名誉教授の田村三郎さんをはじめ数学の教育関係者でつくっている。今回の調査は、同ゼミナールの会員で関西学院大学非常勤講師、

島野達雄さん(五二)は豊中市が中心になって三月から進めている。篠山市の青山歴史村や安間家史料館などを訪ねて史料をひもといてきた。

島野さんは、「数学や古文書に興味のある地元の人たちも、篠山藩でどのような数学教育が行われていたかを調べてほしい」と話している。

「少智録図解」の問題から、十五、六歳ごろになると、「3つの直径の等しい円がたがいの外接しているとき、その3円に囲まれた図形の面積を求めよ」という問題を解くことができた。また、篠山藩士で和算家の北部豊房が編さんした和算書も同史料館にあり、「これは高校、大学レベルの内容」と島野さん。

また、江戸時代の一般的な傾向であったように、篠山でも藩校に入学する前に両親から掛け算の九九を教わり、割り算の九九もあった。

「長さや面積を求めるものなど、パズルに近い問題を集めており、中学生レベルに相当する」と話し、これまで和算の研究者の間で知られていないものだった。

額(算数の問題の額)がある。島野さんによると、これは高校生でも解けないような問題だという。「少智録図解」には寛政十二年(一八〇〇)の年号があり、この算額は文政七年(一八二四)に奉納された。いずれも名君と言われた篠山藩主・青山忠裕(ただやす)の時代で、忠裕がいかに数学を奨励したかがわかるといえる。

これまでの調査によっても、安間家史料館には二、三十冊ほどの和算書があり、そのなかの一冊、「少智録図解」は振徳堂で使われていた教科書とみられ、篠山藩の和算家で作ったものと思われるという。島野さんは「長さや面積を求めるものなど、パズルに近い問題を集めており、中学生レベルに相当する」と話し、これまで和算の研究者の間で知られていないものだった。

額(算数の問題の額)がある。島野さんによると、これは高校生でも解けないような問題だという。「少智録図解」には寛政十二年(一八〇〇)の年号があり、この算額は文政七年(一八二四)に奉納された。いずれも名君と言われた篠山藩主・青山忠裕(ただやす)の時代で、忠裕がいかに数学を奨励したかがわかるといえる。

篠山藩で「和算」教室

幕末には生徒200〜300人

菅野 大 名 調 査
神 大 名 調 査
田 村 教 授



篠山藩士の子弟に和算を教えたことを示す古文書

わが国古来の高度な数学「和算」を篠山藩の藩校「振徳堂」や江戸の藩邸などで教えていたという史実が田村三郎・神戸大名菅教授ら数学教育関係者らで組織する近畿和算ゼミナールの調査で判明した。ゼミナールの会員約20人は11日、篠山市立青山歴史村と同安間家の史料館の史料を検証する。

和算は方程式、円周率、曲線図形の面積を求めることなどに独自の発達を遂げ、江戸時代には関孝和ら俊才を生んだ。しかし、明治時代になって輸入された西洋数学に圧倒され、次第に忘れ去られた。

ゼミナール会員の島野達雄・関西学院大非常勤講師は田村名菅教授の所蔵本の中から安間家史料館の「少智録図解」の写本を見つけ、昨年春から調査。史料館で和算関係の古文書9点を発見し、解析したところ篠山に7人、江戸に12人の計19人の和算の専門家を確認した。

篠山藩は明和3(1766)年、藩校「振徳堂」を創立。天明5(1785)年、藩主に青山忠裕を迎えてから算術師範を設けるなど教育に力を注いだ。藩士の子弟は8歳から必ず入学し、元服(15歳前後)をもって修了。16

高度な和算を教えた藩校「振徳堂」の扁額



歳以降、希望者には算術を専門とする「中学」「大学」への進学を認めた。一貫した「関」流の算術で、幕末の生徒数は200〜300人だったという。島野さんは「現在の中、高校生レベルの問題集もあり、藩の教育熱心さがうかがえた。和算に関する史料はまだまだ蔵に眠っていると思われ、名乗り出てほしい」と話している。【山内英明】



古文書群の中で見つかった和算家の履歴書—篠山市立青山歴史村

日本で独自に発達した江戸時代の数学「和算」に関する数多くの資料が篠山市に残っていることが分かり、11日、近畿の教育関係者らでつくるグループが見学を訪れる。篠山藩出身の和算家の履歴書や和算書などで、数学を組織的に奨励した同藩の様子を知る手掛かりとなる。近く京都大学が発行する論文集にこれらの資料の解読結果が掲載される。

現在の大学で学ぶレベルも

史料群は、市立青山歴史村や市立安間家史料館などに保管されている。調査は神戸大学の教授ら教育関係者たちでつくる「近畿和算ゼミナール」が昨年からの取り組みであり、「一つの藩でこれだけの量が現存するのは全国でも珍しい」。日本の和算教育の実態を裏付け

調査に来訪

あす近畿の教育関係者ら

る貴重な資料と見ている。これまでの調査では、同藩出身の和算家十九人を確認した。多くが篠山藩校や江戸の藩邸で藩士らに和算を教え、藩校の教科書に用いる和算書などを作成していた。他の職務との兼務も多く、才能重視で重用されていたとみられる。

調査の中心となった大阪府豊中市、関西学院大学非常勤講師の島野達雄さん(左)は「和算書の中には、現在の大学で学ぶレベルに相当する高度な内容もある。藩主が算術をいかに重視していたかが分かる」と話す。一方で「調査はまだ始まったばかり。地元でも関心を持って調査に協力してほしい」と呼び掛けている。

篠山に和算教育の貴重な資料

丹波

丹波 総局
 柏原町小南48-1
 電 代0795 (72) 0540
 F A X 0795 (72) 2199
 篠山 支局
 篠山市呉服町22
 電079 (552) 0025
 F A X 兼用

火事や交通事故
 速報、写真提供
 活情報を各部、
 へ気軽にご連絡

人が両施設で和算家の履歴書や、藩校の教科書とみられる和算書などを見学。熱心に写真を撮る姿も見られた。

初めて史料群を見た田村名誉教授は「これだけの史料が現存する地域は全国でもないだろう。当時の和算家の生活ぶりや藩校の仕組みが見えて興味深い」と話した。

和算史料群 熱心に見学

篠山で愛好家ら

日本で独自に発達した江戸時代の数学「和算」について、篠山市に残る史料を見学しようと、近

畿の教育者グループや愛好家が十一日、市立青山歴史村や市立安間家史料館を訪れた。

神戸大学の田村三郎名誉教授ら教育関係者たちでつくる「近畿和算セミナー」の主催。約二十

神戸新聞 4月25日

2003.5.15

篠山藩の史料閲覧

近畿和算ゼミナール 数学教育を説明

大学の名誉教授をはじめ
数学教育の関係者でつくる
「近畿和算ゼミナール」の
会員二十人が十一日、篠山
市の青山歴史村や安岡家史
料館を訪れ、両施設に保管
されている江戸時代の数学
の史料を閲覧した。

同ゼミナールの会員で関西
学院大学非常勤講師の島野
達雄さん(五三)「豊中市」
らが昨年春から篠山藩の数
学教育を調査。篠山藩の藩
校「振徳堂」や、篠山藩が
江戸に構えていた屋敷を拠
点に算術が奨励され、高校
や大学レベルに相当する問
題も解いていたことがわかっ

た。
青山歴史村では篠山藩の
和算家十九人の経歴も載っ
ている史料「御家人由緒明
細録」、安岡家
史料館では振徳
堂で使われてい
た和算の教科書
と見られる「少
智録図解」など
を閲覧した。



和算関係の史料を閲覧する
近畿和算ゼミナールの会員
＝篠山市の青山歴史村で

余地は残っている。家に和
算関係の文書を持っている
人があれば名乗り出てほし
い。また、数学や古文書に
興味を持つ地元の人が調査
に乗り出してくれればうれ
しい」と話していた。

篠山藩 数学教育に力



篠山藩の和算家に関する資料などを調べる「近畿和算ゼミナール」の会員ら（篠山市立青山歴史村で）

算数から大学レベルまで

近畿地方の数学者らでつくる「近畿和算ゼミナール」の会員二十人が、篠山市の旧篠山藩校で行われていた数学に関する調査を市立青山歴史村などで行った。会員らは「まとまった資料が残っているのは全国的にも珍しく、簡単な算数から高度な数学まで幅広い教育を行っていたことがわかる貴重な資料」としている。

藩校の資料調査

会員の写本をきっかけに訪れ、約千家族分の履歴書昨年三月から調査を始めとされる「御家人由緒明細」だ。会員で関西学院大非常勤講師の島野達雄さん（53）学教員十九人が記されているが中心になって同市西新町たことなどを島野さんから市立安間家史料館所蔵の説明を受けた。

和算書「少智録図解」など島野さんは「篠山藩が数どから、かけ算や大学レベルの数学などが行われていたことが記されていること学教育の比較や篠山藩の独自性を確認。今回は原本を見ていない」と話していた。

会員らが青山歴史村などを

ぶら〜り

江戸時代の数学

「和算」教育を篠山に求めて



往時を物語る貴重な史料を見入る参加者の皆さん（青山歴史村にて）。写真左から2人目が神戸大学の田村名誉教授

最後は、ちよつと硬い話題かな。
五月十一日に、江戸時代の数学「和算」について篠山市に残る史料を見学しようと、和算研究者約二十人が篠山に來られていました。これは、神戸大学の田村三郎名誉教授ら数学教育の関係者でつくる「近畿和算ゼミナール」の主催によるもの。参加者の皆さんは、青山歴史村や安岡家史料館で、和算家の履歴書や、藩校の教科書と思われる和算書などを熱心に見学されていました。

篠山新聞「和算」6月
2003年